令和４年度の発掘調査成果

い・せ・きワールド in 前橋2023

①縄文時代の敷石住居、見つかる（横沢柴崎遺跡）

縄文

縄文時代中期後半～後期初頭に、関東甲信越地方に広く分布する「柄鏡形敷石住居」という形の住居の跡が見つかりました。住居の形が柄（持ち手）のついた鏡に似ていて、床面に石が敷かれていることが名前の由来です。この住居のように床の全面にびっしりと石が敷かれているものは珍しく、貴重な発見になりました。

この住居の中心から南寄りには石囲炉（火をおこして食べ物を煮炊きする場所）があり、また、入口の付近には「埋甕」という土器が埋められていました。この土器は女性の出産に関係していたとされており、生まれてきた子どもの健やかな成長や、子孫繁栄の意味合いがあったのではないかと考えられています。

石囲炉のアップ写真

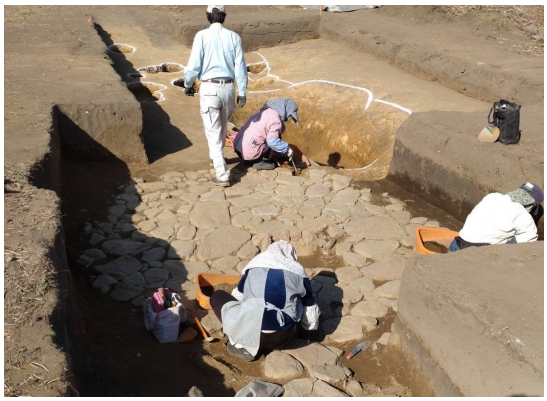
各発掘調査の主な成果と内容

私たちの暮らす地面の下には、大昔に暮らしていた人々の生活の痕跡（遺跡）がたくさん埋まっています。

昔の人が住んでいた家や稲を育てていた水田、さらには今からなんと約1300年も前の県庁の跡など……文化財保護課ではこうした遺跡を発掘することで、昔の人々がどんな暮らしをしていたのか調べています。

令和４年度は市内にある６つの遺跡を発掘調査し、様々なことを発見できました。

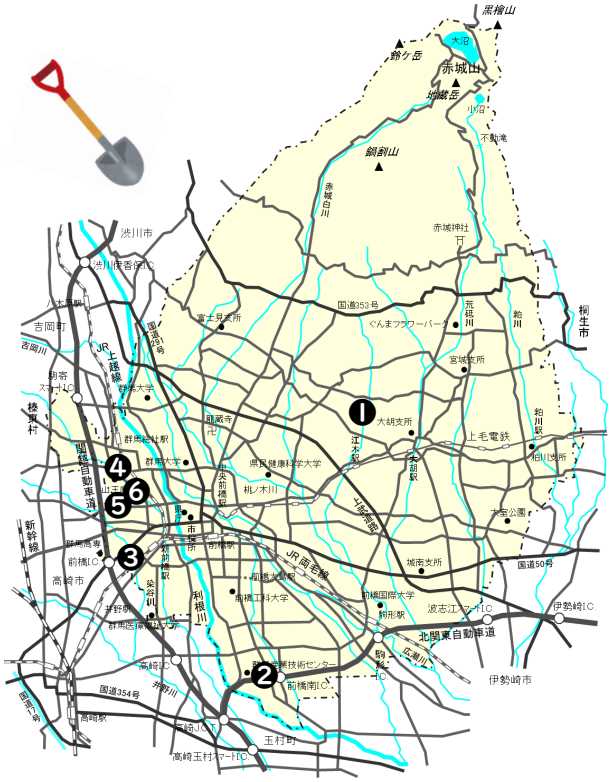
その成果を、みなさんにもご紹介します。



発掘作業をしている様子

遺跡の一覧と地図

No.	遺跡の名前	遺跡の場所	遺跡の時代
①	横沢柴崎遺跡	横沢町	縄文
②	南部拠点地区遺跡群No.12	亀里町	古墳 平安
③	江田村西遺跡No.２	江田町	古墳
④	総社村東03遺跡	総社町植野	中世
⑤	推定上野国府跡	元総社町	奈良 平安
⑥	元総社蒼海遺跡群(147)	元総社町	奈良 平安



時代の区分

今から1000年前（1023年）

①横沢柴崎遺跡

③江田村西遺跡No.２

②南部拠点地区遺跡群No.12

⑤推定上野国府跡

⑥元総社蒼海遺跡群（147）

④総社村東03遺跡

②長く耕作された水田跡（南部拠点遺跡群No.12）

古墳　平安

開発の進む北関東自動車道前橋南ＩＣ近くで店舗が建つため、発掘調査をしました。現在周辺は水田ですが、この水田地帯は平安時代から続くもので、一部は古墳時代から耕作が行われています。平安時代の1108年に浅間山が噴火して軽石が降り、本市南部の水田地帯をおおいました。発掘調査をすると、軽石に埋もれた水田が現れますが、この遺跡でも広がっていました。また、一部に古墳時代の水田や水路の跡も見つかりました。水田に水を引く高い土木技術とともに、平安時代には水田が一面に広がる様子がうかがえます。

広く行われていた平安時代の水田跡

③古墳時代の拠点集落（江田村西遺跡No.2）

古墳

一番新しい５世紀の４号竪穴建物跡

前橋市西部の高崎市との境付近で、高崎市の史跡日高遺跡から約500ｍ東にあります。日高遺跡は弥生時代後半から古墳時代前期の集落で、水田跡やお墓も見つかっています。江田村西遺跡No.2は、やや後の古墳時代前期～中期にあたる４世紀～５世紀の集落で、狭い範囲に10軒以上の竪穴建物跡が見つかりました。弥生時代に伝わった米づくりは、古墳時代に技術が向上して広く平地で行われるようになり、人々は平地の中のやや高いところで暮らすようになります。本遺跡は当時の微高地にある拠点となる集落だと思われます。

④10万枚以上の古銭が出土（総社村東03遺跡）

奈良　中世

前橋市西部の総社町総社で発掘調査をしたところ、約10万枚もの中世の銅銭が出土しました。直径１ｍ弱の穴を掘って埋められたもので、「むしろ」のような袋に入っていたと思われます。袋は無くなっていましたが、土にその跡が残っていました。当時は100枚ほどの枚数をひもに通してまとめて管理していましたが、このまとまりが1000本以上あり、ひもが通された様子も少し残っていました。たくわえるために埋められ、掘り出されなかったのかもしれません。

このほかに奈良時代の竪穴建物跡も見つかりました。

銅銭出土の様子

⑤約1300年前の県庁を探せ！（推定上野国府跡）

奈良 平安

基礎は土を繰り返し突き固めることにより、柱が沈まないようにしています。そのため、何層にも分かれています

今から約1300年前、元総社町には「上野国」の「国府」があったと考えられています。「上野国」とは現在の群馬県のことで、「国府」とは現在の県庁のような役割をもつ役所です。

上野国府は「幻の国府」といわれ、なかなか正確な位置が分かっていません。正確な場所や範囲などを解明するため、調査を行っています。

令和４年度は、元総社町にある宮鍋神社周辺で調査を行いました。今回の調査は、すでに見つかっている役所の周りを囲む区画溝の範囲を調べる調査を行い、その溝の続きが見つかりました。また、その区画内にたくさん建てられていた倉庫の一つである礎石建物跡の一部を調査しました。

溝は２段になっていて、初めに掘った溝（①の部分）をあとでもう一度、広く掘り直した（②の部分）と考えられます。

今後も、この溝がどのくらいまで掘られているのかを調べたり、見つかっている倉庫の跡など、「国府」の謎を解明するために調査を行っていきます。

⑥古代の役所に関係する建物跡を発見

奈良 平安

（元総社蒼海遺跡群（147））

元総社町の宮鍋神社の南側で行った調査では、古代の役所に関係する建物跡を新たに２棟発見しました。

いずれの建物跡も「版築」という工法で、建物の基礎工事を行っていました。古代の役所には、税として集めた穀物や役所で作成した文書などを保管するために倉庫がつくられます。その時収納する物品の重みで建物が沈まないよう基礎工事が行われることがあり、今回発見された建物も倉庫として使われていたと考えられます。

宮鍋神社の南側では、これまでに行った調査でもこのような古代の役所の倉庫と考えられる建物跡がいくつも発見されており、今回発見されたものを含めると計10棟になります。

８～９世紀頃（奈良～平安時代前期）、宮鍋神社の南側には古代の役所の倉庫が立ち並んでいたのでしょう。

今回発見した建物の基礎（白線の部分）

令和４年度の発掘調査成果
い・せ・きワールドin前橋2023

発行：前橋市教育委員会事務局
文化財保護課
住所：前橋市総社町三丁目11－４
電話番号：027-280-6511
ＦＡＸ：027-251-1700
メールアドレス：
bunkazai@city.maebashi.gunma.jp